

マルワリードⅡ主幹水路、200m地点。挿し木後4～5か月を経たヤナギ。殆ど活着している。水さえ与えれば、ヤナギは四季を通じて挿し木ができる植物。
2017年11月23日



マルワリードⅡ取水堰を下流側から見る。砂吐からの激しい流れは川の中心側へ向かい、心配された河岸洗堀は殆ど起きなかった。2017年11月23日



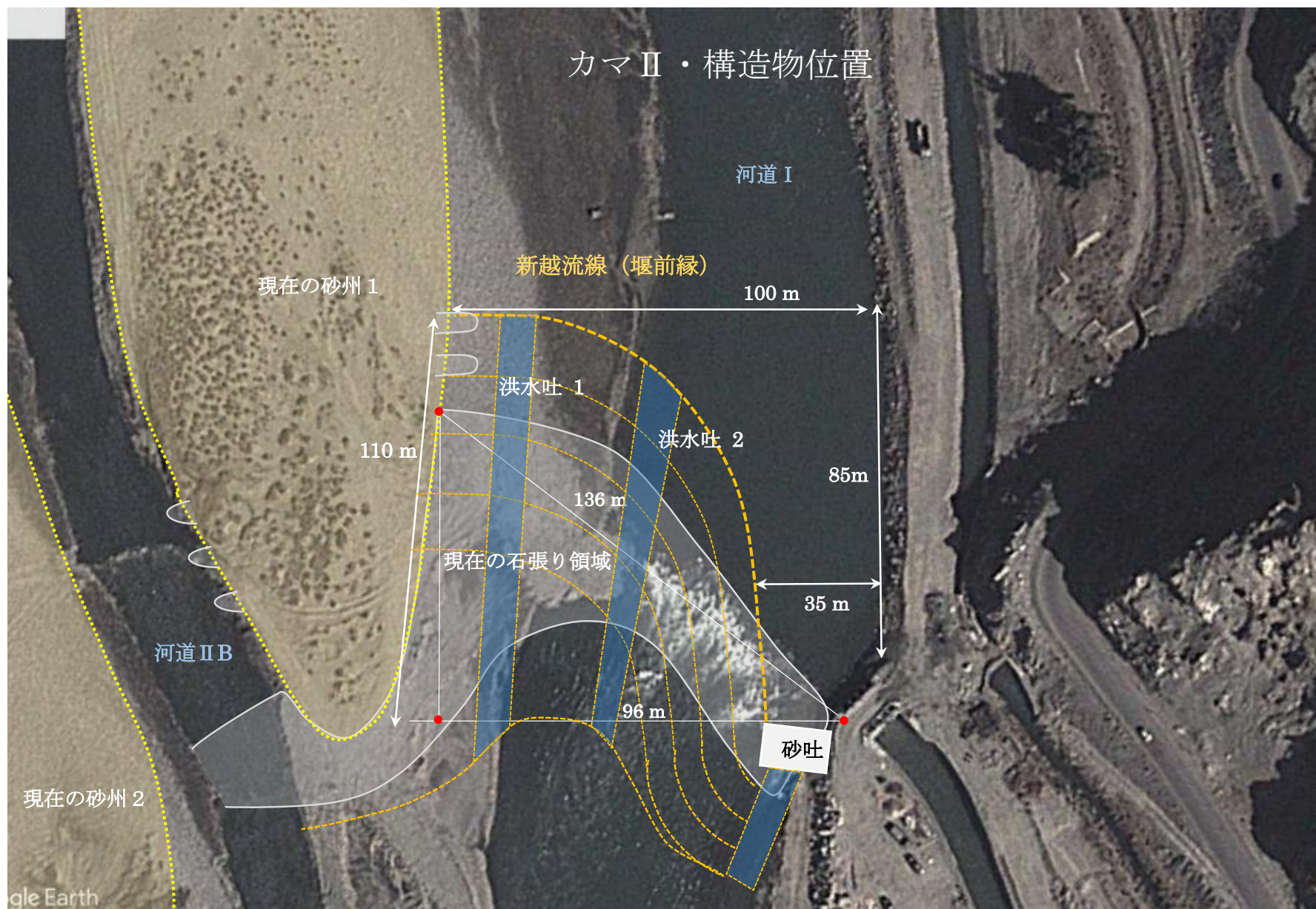
堰の上流側。11月14日の降雨で一時的に増水したが10 cmの水位上昇にとどまり、翌日には元に戻り、水位70 cm前後を維持している。ダラエヌール溪谷のケシュマンド山脈が白雪をかぶっている。2017年11月23日



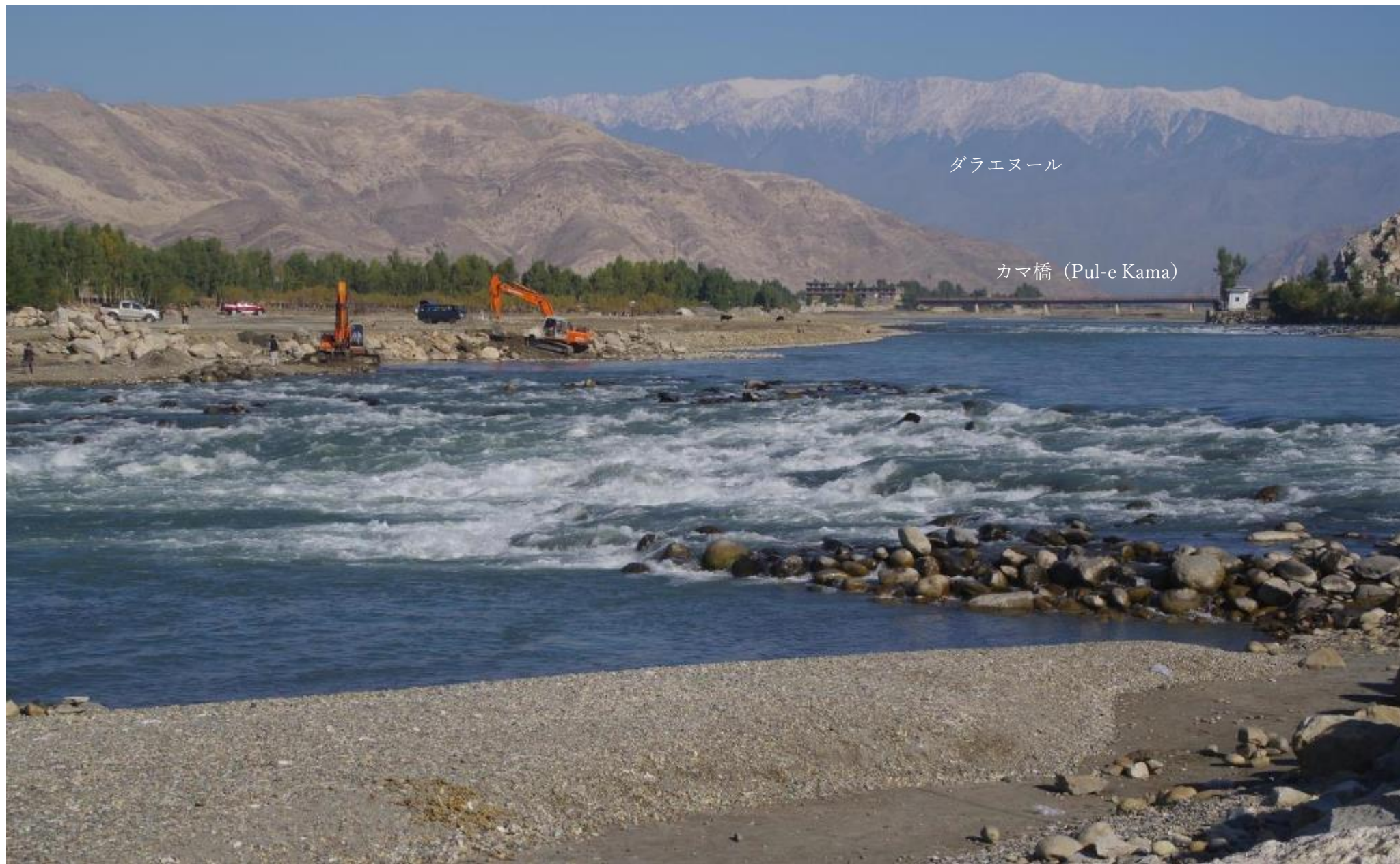
砂吐（＝可動堰）の現在。今年は大きな仕上げ工事が省かれて、幸運に恵まれた。2017 年 11 月 23 日



カマ第二堰再建の最終案。今でも十分頑丈だが、改修の要は既に述べた通り。これによって堰幅（越流線）が約 200m となり、さらに安定する予定。洪水吐 2 は流れ方によっては省かれるが、できるだけ復元したい。洪水吐設置の最大の理由は、取水門側へ向かう水量を減らし、急傾斜で脆弱にならざるを得ない同部の堰体の負荷を減らすことにあると思われる。しかし、カチャラ堰や連続堰で見られた変化は、結局この形に類似して落ち着いているので、ほかに理由があるのかも知れない。



カマ第二堰の対岸（砂州 1）を取水門側から見る。2017 年 11 月 22 日



ダラエヌール

カマ橋 (Pul-e Kama)

堰と接続する対岸砂州の岸边は頑丈な巨礫で斜面を作り、幅 20～30m、長さ 110m で巨礫を敷き、洪水吐を先に造成、いったん多めに水を流して水位を下げ、取水門側の砂吐の基礎工事を行う手はずになっている。大々的な巨礫輸送が行われ始めた。2017 年 11 月 23 日



同工事風景。2017 年 11 月 23 日



河道Ⅱの架橋。石材輸送で最大の難儀が河道Ⅱの横断であった。今回は河道Ⅱを臨時閉塞して、対岸ベスードから砂州Ⅰに架橋、今後の維持でどれほどの便があるか、計り知れない。橋は幅30～40mの河道を横断し砂州Ⅰに至る。2017年11月23日



ミラーン訓練所の現在。役人の希望でレンガ壁に塗装をした状態。外壁の色は PMS のセンスではない。やはり門番小屋のレンガ壁の方が美しく見える。
2017 年 11 月 23 日

